

沖繩作戰
ニ於ケル

工兵第二十四聯隊

史實資料

昭和二十二年三月二十五日
第三十三軍殘務整理部

沖繩進駐前ノ履歴ノ概要

一、昭和九年四月獨立混成旅團工兵中隊トシテ編成セラレ、滿洲公三山嶺ニ駐屯ス(其間同地附近ノ警備並ニ北支軍事變ニ參加)

二、昭和十三年三月部隊ハ二ヶ中隊ニ改編セラレ、獨立混成旅團工兵隊ト改稱セラル(部隊長 川村大佐)

三、昭和十三年七月第一中隊(中隊長 安藤進大佐)ヲ騎兵第四旅團ノ指揮下ニ入ラシメ、北支中支ニ派遣ス

四、昭和十三年ノモソノ事件ニ依リ、第二中隊(當時安國兵團ノ指揮下ニ在リ)出動

五、昭和十四年十二月部隊ハ第二十四師團編成ト共ニ工兵隊第二十四隊ト改稱セラル(モソノ事件終局スト、滿洲國東安省東安ニ移駐同地ニ於テ國境警備ニ服ス)

(部隊長 沼崎恭平大佐)
六、昭和十五年五月北支派遣中、第一中隊(北支派遣騎兵第四旅團編成改正過剩人員)ハ工兵隊第二十四隊ニ原隊復歸ヲス

七、同年部隊編成改正ニ伴ヒ、中隊ニ編成セラル

八、昭和十六年三月、兒玉相光大佐補職セラル

九、昭和十九年七月二日、部隊ニ勅令下シ
一〇、同年七月十三日、東安省東安出發、七月十九日、小倉ニ着、昭和十九年八月一日、門司港出發、同月五日、沖繩那覇港ニ上陸セリ

部隊作戰開始時、編成

工兵 第四聯隊 編成
長 陸軍大佐 兒玉和光 第一中隊長 陸軍中尉 江井全

副官 陸軍中尉 加藤廣一 第二中隊長 同 中山四加次

主任 陸軍中尉 前川保晴 第三中隊長 同 江刺隆

主計 陸軍中尉 堀口博 兵器 陸軍少尉 岡山敏男

醫官 陸軍中尉 榎村正男 同 同 小林幸雄

衛生 陸軍軍醫大尉 中村正男 器材小隊長 陸軍少尉 佐々木節夫

同 同 久野昌

防衛召集 二名

兵力七五〇名(概数ニシテ詳細不明ナリ)

計一〇〇〇名

指揮隷屬、配屬關係

一、作戰開始前

第二十四師團隷下

二、作戰開始後

第一中隊ヲ 歩兵第二二聯隊

第二中隊ヲ 歩兵第八九聯隊

第三中隊ヲ 歩兵第三二聯隊

器材小隊ヲ 聯隊本部直屬

二配屬ス

昭和十九年七月十三日 東安出資博多港ニ上陸シ約二週間小倉ニ駐屯セリ

八月一日 沖繩ニ向フベク門司港出帆ス

八月五日 那那西朝港ニ上陸シ嘉手網ニ進駐ス、以後石嶺久得ニ在リテ

同地ノ防備及陣地構築ニ従事ス

十月十日 敵機約八百機空襲シ未ルモ人員唯一名戦死セルノミニテ

大ナル損害ナシ

十月十五日 沖繩初年兵一六〇名入隊ス

十二月六日 武部隊ノ轉進ニ伴ヒ島尻郡高山嶺村字大里ニ轉進以後

附近ノ防衛及陣地構築ニ任ズ

昭和二十年三月二三日 多数ノ敵機来襲、甲子戦備ヲ全クシ戦闘配備ヲ完了ス

三月二十四日 敵機動部隊進攻シ艦砲射撃ヲ開始ス

四月一日 敵五加手級北谷正局ヨリ上陸ヲ開始ス

四月二十六日 騎隊長以下首里市赤田町ニ轉進ス

五月四日 第三次總攻撃ニ参加シ敵ニ大ナル損害ヲ与ヘタルモ我々亦

人員ノ損失大ナリ

五月二十九日 首里撤退、島尻郡高嶺村大字大里ニ轉進ス

六月十日 敵首里ニ殺到シ来リ騎隊長ハ新垣ニ轉進ス

六月二十二日 全員壯烈ナル挺身斬込及戦車ニ体当リヲ敢行ス

兒玉聯隊長ハ壯烈ニ戦死シ遂ニ將校以下大半戦死シ生存者僅カニ三千數名ナリ

戦果

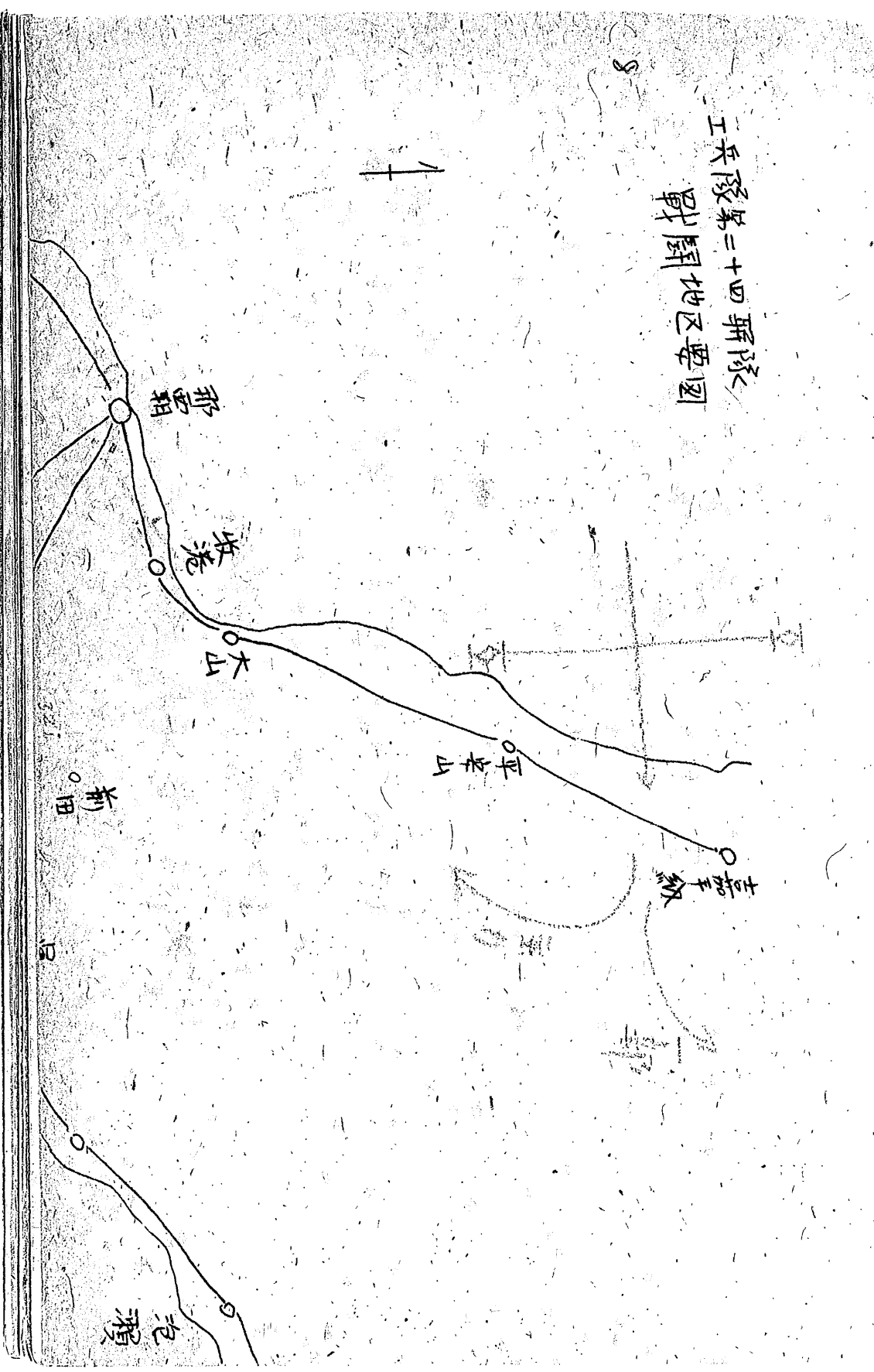
首里ニ轉進後ハ本部及器材小隊ヲ除キ各三ヶ中隊ハ各歩兵隊ニ配屬ニナリ地雷埋設及肉迫攻撃ヲ挺身斬込ヨリ戦車ヲ爆破スルモ四〇一六〇輛トナリ其他多數敵ノ人員殺傷ニ付キテハ全ク不明ナルモ相當ノ損害ヲ與ヘタルモノト思考セラル

大里後退後ハ各部隊ト共ニ協カシ困難ナル状況下能ク敵ノ銃鋒ヲ破リ以テ全軍ノ意氣ヲ昂揚セリ殊ニ地雷埋設ハ巧妙ヲ極メ能ク敵ノ戦車群ノ進出ヲ阻止シ莫大ナル損害ヲ与ヘタリ

松茂ニ中隊松山小隊ハ首里ニ於テ地雷埋設及斬込ヨリ一與ニ敵戦車十餘輛ヲ爆破シ軍司令官ヨリ感状ヲ授ケセラレタリ

第三中隊志田小隊
 田口伍長以下三名八首里ニ於テ敵中深く斬込テ敢行シ戰車ニ
 自動車三幕舎監視兵三名人員殺傷五十ノ戰果ヲ與テ師團長
 ヨリ賞狀ヲ授ケセラレリ
 其他壯烈鬼神ヲモ遠カシムル勳功ヲ樹テタルモノ枚與テ三連ナキニ
 遂ニ敵ノ圧倒的物量及兵力前ニ神カケタル勇士ノ勇戰モ遂ニ戰局ヲ
 存續セシムル事能ハズ遂ニ全員壯烈ナル戰死ヲ遂ケルニ至レリ

工兵隊第二十四聯隊
 戦闘地区要圖



24 T

